

経済

サイン

登場から1周年を迎えたばかりのビデオCD。ビデオと違いプレイバックやリピートなどの操作が自由にできるという特性を生かし、ハウツーやビジネスなどさまざまなジャンルのソフトが発売されている。

レイシスソフトウェアサービス(本社・大阪市)の「アイラブ サイン 手話でコミュニ



ケーション」(4600円)＝写真＝は、自宅などで簡単に手話が習得できる教材ソフトだ。

ビデオCDは音楽用CDと同じ直径12センチの光ディスクに映像と音声をデジタル圧縮。最大で74分の記録ができる。昨年夏に規格統一され、電機メーカー各社がプレーヤーなどのハードを

ビデオCDの特性使って簡単に習得

発売。ソフトもこれまでにカラオケや映画、音楽クリップなど約800種類が売り出されている。

同社の手話ソフトは、松下電器産業が技術支援し、全日本ろうあ連盟の監修で製作された。プレーヤーなどのハードに付いているリモコン装置で操作、正確な動作と表現を繰り返し確認することで、視覚言語である手話を簡単に習得しようというの

話題のソフト

「アイラブサイン 手話でコミュニケーション」

が狙いだ。

メニューは①あいさつ②基本単語③会話④クイズなど8項目。リモコンでメニューを選択するだけで、どこからでも練習が始められる。頭出しも瞬時にでき、リピート機能で希望の個所が繰り返し再生できる。このほか、手話でのクイズに答えるという双方向機能や、手話ロックグループのコンサートシーンを収録するなど、ビデオCDの特性を最大限に活用している。